

二丈中学校だより「真理」(まこと) 第9号

校 訓 自主 共感 健康

めざす学校像「人にやさしい 自然にやさしい はずむように学び合う学校」

糸島市立二丈中学校 平成26年12月11日(木) (文責 校長 坂本美紀子)

いじめのない いじめを許さない二丈中学校へ

11月30日(日)付けの新聞各紙に、山口県美祢市の市立小6年の男児が、いじめが原因で飛び降り自殺を図ったという記事が掲載されました。二丈中学校でも、「死ね、キモイ、うざい」等の言葉の暴力を平気で発している生徒、遊びと称してプロレスやちょっかい等人の嫌がる行為をしている生徒がいます。いじめを受けた生徒は、心を傷つけられ、つらくて悲しい日々を送っているのです。生徒が命を落とすという取り返しのつかない事態になって、初めて後悔しても遅いのです。

そこで、12月1日の全校集会で、二丈中学校からいじめや悲しい思いをする生徒をなくしていこうという校長アピールを行ないました。その中で、「いじめをされたり見たことを、隠さずに明らかにしていくことがいじめをなくす第一歩であり、毎月の生活(いじめ)アンケートには、正直に実態を書いてほしい」と話しました。現在、担任・学年教師を中心に、アンケートに書かれた内容を一つ一つ丁寧に読んで、解決に向けての指導や教育相談を行なっているところです。

二丈中学校では、「いじめはこの学校でも起こりうる」という認識の下、未然防止、早期発見、早期解決に向けた全方位からの体制の強化を図っています。いじめの解決には、保護者との連携が欠かせません。ご家庭で、お子様の小さな変化やご心配がございましたら、気兼ねなく、学校にご一報ください。よろしく願いいたします。

乳児、母親との交流体験学習(3年)

12月4日(木)に、乳児(11名)と母親(10名)と市の職員の方6名を講師に招き、乳児との交流体験「命・出産・子育てについて学ぼう」を実施しました。生徒たちにとって、乳児を実際に抱き、あやすことを通して、妊娠・出産・子育てについて学び、生命の尊さを実感するという価値ある体験となりました。



☆3年生が赤ちゃんとそのお母さんに接する姿を見せていただきました。大変ステキな姿でした。赤ちゃんを見つめる笑顔や、大切そうに慎重にだっこする動き、お母さん方の話を真剣に聴くまなざし、全てが素晴らしい姿でした。皆さんの心と体の中に、「いのち」を大切に、愛おしむ力があることを見せてくれました。とても嬉しい気持ちになりました。本当にありがとうございました。県内の社会教育主事の先生方も、「こんな素晴らしい中学生がいるなんて…」と大変感心していましたよ。これからも、自分と自分につながる一つひとつの「いのち」を大切にしていってほしいと思います。(社会指導主事)

☆中学生の間に、このような命の大切さを学べる授業があってとても良いと思いました。私自身は、今こんなに小さな子どもが大きくなることを思いえがいて楽しかったです。(乳児保護者)

【12・1月の主な行事予定】

12月12日(金) 立会演説会、生徒会選挙	16日(金) 学校公開日
16日(火) 学校公開日	17日(土) 筑前地区新人駅伝競走大会
19日(金) 弁当の日 部活朝練習中止	23日(金) 入学説明会(アプローチレッスン)
24日(水) 終業式	24日(土) 土曜授業(授業参観)
	27日(火) 私立専願入試
1月 8日(水) 始業式	28日(水) ~30日(金) 職場体験(2年)

第34回全国中学生人権作文コンテスト福岡県大会 最優秀賞(中央大会人権擁護局長賞) 受賞 2年 重富 和楽さん

本校2年重富和楽さんが、「第34回全国中学生人権作文コンテスト福岡県大会」において『最優秀賞』、全国では『中央大会人権擁護局長賞』を受賞し、12月6日(土)春日市のクローバープラザで開催された「表彰式及び発表会」において、堂々と受賞作文を発表しました。重富さんがもつ、人権感覚の豊かさ、共感力、探求力の深さがこの受賞につながったものと思います。

「伝えたい 太鼓の響きと私の学び」 2年 重富 和楽

「ドーンドーンドーンドーン」今日もお祭りで太鼓の音が響いています。地域の人たちは手拍子をしたり歓声をあげたりして毎回演奏を楽しんでくれます。私は小学校1年生から糸島二丈絆太鼓という和太鼓チームで練習に励んでいます。太鼓の練習はほとんど毎日あり、基礎打ちや曲の練習を仲間と共に頑張っています。太鼓は打つだけでなく、雨などにぬれると一度ひもをゆるめて皮を乾かしたり、皮の張り具合を調節したりしなければいけない、強くて繊細な楽器です。私は、この太鼓が大好きです。

ある日、父から「せっかく太鼓をしているから、太鼓のことを通して差別とたたかってきた人たちのことについて調べてみたら?」と言われました。私はとても不思議でした。差別とたたかってきた人たちと太鼓との間にどんな関係があるのでしょうか。

私は、早速父からすすめられた『菜の花』というビデオを観ました。主人公の庄七は皮なめし職人でした。死んだ牛の皮を使って雪駄や太鼓の材料をつくる仕事です。江戸時代には、このような仕事をする人は、えたやひにんと呼ばれて差別されていたことを知りました。入ってはいけない場所があったり、衣服や履き物を決められたりする、今では考えられない差別です。庄七は、ある日村の決まりを破り、敷居をまたいでお酒を飲んだことにより殺されてしまいます。私は、どうして敷居をまたいで殺されるのかと不思議に思いました。庄七を殺すなんてとてもむごいことだし、自分たちの都合のいいように人を利用し頑張っている人たちをけなすなんて本当に悲しいことです。庄七は、自分の命をかけて差別のおかしさを訴えたのではないのでしょうか。『東山文化を支えた差別された人々』というDVDでも同じような現実がありました。鳥や牛や馬などの動物の死体を処理する人は「河原者」と呼ばれ、税がかからない河原に住み、動物の死体を処理したり、清掃の仕事をしたり、庭造りの仕事をしていました。この仕事は、残酷だとか、けがれているとか、周りからおそれられ、社会から排除されていたのです。しかし、銀閣寺や龍安寺など世界的にも有名で、現在でも人々の気持ちを癒す庭を造ってくれたのも、この人々だということを知りました。この人々こそが、社会的にも必要とされる仕事や役割・文化を担っていたのです。うれしい情報もありました。足利義政や周麟という僧などは、差別されてきた人々を認め、活躍の場を与え、一人の人間として接していたというのです。差別をすることが当たり前時代に差別をせず人と接することができる生き方は本当に素晴らしいと思います。

では現在の社会で差別とたたかってきた人々は、どのように生きているのでしょうか。それを知るため、父の知り合いのMさんに取材させてもらいました。Mさんは、もうすぐ79歳。若い時から差別とたたかってきた人です。私は、現在どんなふうにたたかっているのかを尋ねました。Mさんは、お葬式の花輪や飲み水の器の話などを通して、差別を受けた人にしかわからない気持ちを話してくれました。そして「自分やムラのことを理解してもらおう」ことの大切さや「正しい言葉で、相手が分かるように伝えていく」運動や活動について語られました。また、糸島の太鼓の歴史も聞かせてくれました。糸島にも、ムラの人が営む太鼓屋があったということ、主に牛の皮が太鼓の材料になったこと、牛の皮を黒田藩の皮なめし場に運んでいたこと等です。大阪の太鼓屋又兵衛は、太鼓の皮が破れたら、10年から20年は無料で修理するという「保証書」を付けていたそうです。それだけ、太鼓づくりの技術に自信と誇りを持って仕事をしていたのでしょう。取材の最後にMさんは、「差別について考えることで、これからいい社会ができていくと思う」「部落問題だけでなく、人権のことで、自分の心の中にあるものを、家庭や友だちや学校の中で表現することを大切にしていってほしい」と伝えていただきました。私は、Mさんの話を聞いて、身の回りにある小さな差別からなくしていき、差別についてしっかり考えるような温かい心をもって生活していきたい。そして、学んだことをみんなに伝えていきたいと思えます。私は毎日太鼓をたたきます。太鼓を見るたびに、大事なことを思い出します。太鼓の歴史や差別とたたかった人たちの思いを大切に、観てくださるみんなに楽しんでもらえるよう、これからも一生懸命太鼓をたたいていきたいです。



ふるさと二丈中PTAバザー

〇バザーにおきましては、保護者の皆様のご協力ありがとうございました。中学生が楽しんでいたこと、中学生の笑顔が一番の喜びでした。なお、収益金の179,700円は、タブレット(I・Pad)の購入に充てさせていただきます。先進的な授業の一助になればと考えております。

12月の言葉

みんなちがって みんないい

【金子みすず 「わたしと小鳥とすず」より】

<すべての存在が、そのまますばらしい>
12月4日~10日は、人権週間です。
お互いの存在をありのままに認め合う
二丈中学校にしよう!!